

## 平成 25 年度 第 2 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

藤原 良一 栗島 聡 岡田 清久

### Activity Report of SPM Research Committee

Ryoichi Fujihara Satoshi Kurishima Kiyohisa Okada

研究委員会では現在 10 の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 25 年 4 月 1 日現在の各研究会活動と各種イベントの予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会やイベントには是非積極的な参画をお願いいたします。

#### 1. 研究会活動

##### (1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査: 横山 真一郎 東京都市大学)

プロジェクト計画立案のための要求整理方法を、QFD の考え方を応用して検討しています。今年度は QFD の考え方やソフトウェア設計のための技法の考え方をを用いて見積もり精度向上のための方法を検討しています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

・3 月 4 日(月) 研究会開催予定

春季大会での発表をリハーサルし、発表内容の精査と今後の展望を議論しました。

<今後の予定>

・4 月 12 日(金) 研究会開催予定

春季大会での発表結果のフィードバックと 2013 年度の活動方針の検討を行います。

##### (2) リスク・マネジメント研究会

(主査: 武井 勲 武井勲リスク・マネジメント研究所, 大阪大学)

原則 2 か月に 1 回のペースで研究会を開催しています。プロジェクトに関わるリスクを中心に各会員が発表しています。現在、新規会員を募集中です。分野を問わずリスクやリスク・マネジメントに関心・興味のある方大歓迎です。

<活動実績>

12 月 15 日の例会では武井主査から「戦略的リスク・マネジメントの実践」に関する研究報告が発表されました。

<今後の予定>

次回例会は現在のところ未定です。詳細はお問い合わせください。

【問い合わせ先】spm-risk@yahoogroups.jp

##### (3) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査: 河合 輝欣 ユー・エス・イー)

広範囲な社会全体の領域にかかるプロジェクトを対象とした、ソーシャルPMの体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行ってきました。

2009 年春季大会にて発表した「電子政府調達計画にみる社会基盤情報システムプロジェクト成功への提言」を基にソーシャルPMの体系化、モデル化を行う等検討を深めてきました。

<活動実績と今後の予定>

近年、社会インフラプロジェクトの事例として、東日本大震災の復旧復興プロジェクト、総務省が進める ICT による街づくり、スマートコミュニティの推進などが注目を浴びており、新たな事例研究のテーマとして立ち上げるべく研究会を準備中です。

##### (4) PM 人材育成研究会

(主査: 池田 修一 富士ゼロックス)

当研究会のメンバーが、PM の育成やプロジェクトマネジメントに関する様々なテーマについて、2010 年から学会誌に連載してきました。研究会の成果を発表する場としてより一層活用するために、「企業のプロジェクトマネジメント力向上—中堅リーダーや経営層の PM 育成」を基本テーマとして、来期 (2013 年 4 月) から PM 人材育成研究会連載「第 2 部」として掲載します。4 月からは新しい体制で研究会の活動を行うことになりました。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

2 月度例会では、第 2 部最初の記事となる「連載記事第 2 部プロローグ」の内容についての説明とディスカッションを行いました。3 月度例会では、連載記事の担当と掲載順序を決定しました。また、4 月以降の新体制について全員の合意が得られました。

<今後の予定>

学会誌の4月号から連載記事の「第2部」を掲載します。4月から新たな体制で研究会活動を行います。4月度例会では今後の進め方についてのディスカッションを行う予定です。

【問い合わせ先】 pm-com@yahogroups.jp

#### (5) パーソナルPM研究会

(主査：富永 章 PMラボラトリー)

当初は個人のプロジェクトにモダンPMを使うことから始まりましたが、次第に発展し個人向けの知恵の体系になってきました。今それを分解してみると、およそ半分は組織PMと同様にプロセスや手法です。しかしもう半分はビジョン、人や社会への貢献、心がけ、やる気、習慣づくりといったいわば心の側面になっているのに気がきます。

ゴールを掲げる、目標を達成する、人生を充実させる、人を育てる、そういうことに有益な知恵の体系をめざして継続的に活動しています。メンバーの取組みは個人の時間づくり、リーダー育成、こどもびいえむ、組織への適用、関連分野検討など、多様で広範囲です。過去出版した書籍「パーソナルプロジェクトマネジメント」は引き続き好評です。

<過去2ヶ月の活動実績>

2月10-11日第50回会合(熱海市で合宿)報告と発表、ロードマップ、春季大会準備

3月29日第51回会合(於 筑波大学東京)報告と自由発表4件、情報交換

<今後の予定>

4月24日第52回会合(於 筑波大学東京)報告と自由発表、情報交換

【問い合わせ先】 spm.ppmken@gmail.com

#### (6) 歴史に学ぶPM研究会

(主査：桑原 秀仁 トヨタファイナンス)

歴史上の出来事や人物についてプロジェクトマネジメントの視点から焦点を当てることで見えてくるものがある、ということで当研究会に集っています。歴史に学ぶプロジェクトマネジメント研究会では、メールを活用したコミュニケーションを図っています。各メンバーが自分の取組みテーマをマイペースで調査/研究しています。

<メンバーからの近況報告>

奈良に行ってきた。飛鳥・奈良の時代にも様々な大規模プロジェクトは存在した。数次の遷都、奈良の大仏、数々の有名なお寺や神社の建立は壮大な国家的プロジェクトであった。プロジェクト

オーナーの動機は、宗教に対する信仰心、自然災害、疫病、怨霊のタタリへの恐怖、それらの鎮魂であったりしたのではないだろうか。千数百年前のプロジェクト成果が、奈良には今もしっかりと残されており、訪れた世界中の人々を魅了している。多くの基本的プロジェクト手法は海を渡り伝来してきたとは言え、これら古代国家プロジェクトは間違いなく日本で着実に生まれ成功したものであり、日本はもっと胸を張って誇って良いと思う。また日々QCDに苦悩する現代のプロジェクトマネジャー、PMOメンバー達も、一度は古都を訪ねて千年プロジェクトの重さに触れてみるのも明日の自分に役立つのではないかと思う。

#### (7) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立公共システムエンジニアリング)

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として活動しています。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。毎月原則第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています。お気軽に体験参加してください。

<過去2ヶ月の活動実績>

・2月27日(水)第41回定例会合開催

「メンタル不全是減っているのか?」に関して、メンバーの所属企業の情報などを持ち寄りながら深掘議論。

2013年春季大会にて予定している発表内容(2件)について最終レビューを実施。

2013年の研究会フォーラム開催場所及び時期について議論。

・03月21日(木)第42回定例会合開催

明治大学大学院の近藤隆雄先生による講演「サービス・マネジメント入門」を開催。サービスとは何か、サービス商品とは何か、サービス経営ではどんなことが問題になるかなど、サービス・マネジメントについての基礎とプロジェクトマネジメントの関係を参加者全員で議論。

<今後の予定>

・04月17日(水)第43回定例会合開催予定

・05月15日(水)第44回定例会合開催予定

【問い合わせ先】 pmmh\_all@googlegroups.com

#### (8) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

(主査：梶山 昌之 DSR)

プロジェクトの規模、工数・コスト・工期・品質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト

計画への活用法を研究します。

<過去2ヶ月の活動実績>

統計の基礎と Excel による統計活用を学ぶため、関連書籍3冊の学習を完了しました。日本ファンクションポイントユーザー会 (JFPUG) と協業し合計18回の学習会 (内11回がPM学会主催) を開催し発表資料などのコンテンツを蓄積することができました。研究会メンバーはこれらの資料を社内の研修資料や論文作成などに活用できます。

<今後の予定>

12年度は統計基礎を中心に活動を行いました。13年度はコスト見積もり知識体系 (CEBoK) の内容を参照しながら、プロジェクトの定量的管理と見積りの応用面に重点を置いた活動を実施する予定です。会合は1回/月を目安に会合を行いますので、ご興味ある方の参加をお待ちしております。

【問い合わせ先】 kajiyama@dsrnet.jp

#### (9) ものづくり R&D プロジェクトマネジメント研究会

(主査: 久保 裕史 千葉工業大学)

ものづくりのための研究開発プロジェクトマネジメントの問題点抽出・分析と、その結果に基づく使いやすいPMの研究活動に、17名の産学協同検討チームが取り組んでいます。

<過去2ヶ月の活動実績>

第5回会合 (2月21日) で、4つの各ワーキンググループ (①啓蒙 WG, ②定義・ツール WG, ③ステージゲート WG, ④人材 WG) から、それぞれのミッションと H25 年度活動計画が報告され、メンバー全員でその確認と擦り合わせを行いました。その概要を、本学会のホームページと 2013 年度春季研究発表大会 (3月14日) で紹介しました。

また、第5回会合では、エーザイ(株)理事の長洲毅志様を特別講師としてお招きし、「創薬研究の為にインフォマティクスとPM」についてご講演頂きました。一般的なものづくり系企業の R&D のスケール感覚との違いに驚かされましたが、R&D の後半では、PM ライクな仕組みが導入されているようです。

<今後の予定>

4つのWGがそれぞれの研究を推進し議論を掘り下げ、成果に結びつけて行きます。次回会合 (4月25日) では、その活動状況が報告されるとともに、パナソニック(株)技監の菰田卓哉氏を特別講師としてお招きし、「先行技術開発における研究開発マネジメント」についてご講演頂く予定です。

#### (10) フロネシス PM (知恵ある実践) 研究会

(主査: 本間 利久 北海道大学)

2012年10月より研究会として新たに発足しました。

研究会名称のフロネシスは、アリストテレスによる三つの知恵のあり方の一つで、実践知 (practical wisdom) と訳され、倫理や情動、人間の行為などが加味された総合的な知恵を意味しています。また、プロジェクトも、知識、技術、実践の総合知であることを考えると、プロジェクトマネジメントの知識・技術を実践の場で活かすには、単体のプロジェクト (PMBOK ガイド®) を取り巻いている世界 (①人間関係のスキル②一般的なマネジメント知識・スキル③プロジェクト環境の理解④適用分野の知識・標準・規制) を考慮する必要があります。このことがプロジェクトマネジメントの賢い実践 (フロネシス) につながります。

そのため、①②③の組織文化の違いの理解、乖離を埋める方策および新体系の創出・実践知を探究し、その研究成果を外部に発信していくことを研究会の目的としています。

<過去2ヶ月の活動実績>

2月26日 (火) 第3回研究会を北海道大学東京オフィスで開催し、PM学会2013年度春季研究発表大会内容について検討しました。また、研究会活動の「PBLの定義」と「現場力」について資料に基づき議論しました。さらに、メンバー間の情報共有および研究会の外部発信の観点から、本研究会の簡易版ホームページを作成することとし、9月16日 (月) 開催予定の韓国との合同フォーラムについて検討後、書籍「文化を計るー文化計量学序説ー」と「グローバル・プロジェクトマネジメント」の紹介を行いました。

3月13日 (水) 第4回研究会を東洋大学で開催し、PM学会2013年度春季研究発表大会の報告後、5名の新メンバーの紹介がありました。また、本研究会のホームページ閲覧状況の説明がなされ、今後の研究会資料の情報共有化を踏まえ内容の充実をはかることとしました。書籍「文化情報学入門」の紹介を行いました。

その間、3月12日 (火) 開催のプロジェクトマネジメント学会研究会トラックで、研究会活動内容の紹介と新研究会メンバーの勧誘を行いました。

<今後の予定>

4月16日 (火) 第5回研究会を北海道大学東京オフィスで開催し、これまでの研究会活動内容を報告後、韓国との合同フォーラムの基調講演および参加予定者等を検討する予定です。また、研

究会の年間スケジュール調整と書籍・資料紹介を行います。

## 2. その他

活動中の研究会への参加や、新規研究会活動に関する問い合わせは下記までご連絡をお願いします。

### 【問い合わせ先】

研究委員会委員長 藤原 良一  
fujihara-ryoichi@mdis.co.jp

研究委員会委員 吉田 賢吾  
yoshida-kengo@mdis.co.jp

研究委員会委員 赤羽根 亮子  
akabane-akiko@mdis.co.jp